

小中の部

特選

芭蕉像静かに聞きいるせみの声

大垣市

岩本 一斗（小六）

作者は、俳句の町大垣の象徴である結びの地に建てられている芭蕉像の石碑を見学した時の様子を詠んだのですね。結びの地辺りは、さほど騒々しくもありませんが、そんな中でも「芭蕉像静かに聞きいる」という表現がいいですね。ひよつとしたら作者は、芭蕉さんは、せみの声を聞きながらもう一句、せみの句を作ろうとしたのかも知れないと思えたのかかもしれませんね。そんな中で作者は芭蕉さんも喜びそうな楽しい俳句ができました。

はつおぼんひいばあちゃんはげんきかな

大垣市

柳瀬 才嬉（小二）

「はつおぼん」とありますから作者のひいばあちゃんが、なくなられて初めてのお盆がきたのですね。家族で、仏さまにおまいりしたり、お墓まいりなどをされたときの気持ちが、よく出ています。作者の気持ちは、きっとひいおばあちゃんに届いていることでしょう。

ひまわりはみんななかよしおなじむき

大垣市

なわ しょうま（小二）

夏の花の代表であるひまわりの句はたくさんありますが、「みんななかよしおなじむき」という書き方がいいですね。よく見ると、たしかにひまわりは、その名の通り、お日さまの方を思つて書いています。この句をつくった作者も日頃から「みんななかよし」つていい事だと思つていています。

秀逸

町中が夕焼け色にそまつてく

大垣市

海老 柚葵（小六）

かがみ見てひやけのマスクできていた

大垣市

市川 瑛斗（小五）

夏の川みなものひかりこぼれだす

大垣市

吉田 杏（小六）

大垣市

河合 正志郎（小四）

ひまわりがこちらをむいてにこにこだ

大垣市

河合 珠里菜（小三）

せみが鳴く家の中でもひびいてる

大垣市

平塚 ちさと（小三）

ひまわりが太陽のこと見てているよ

大垣市

種村 和真（小三）

どんぐりが兄弟そろつて落ちてきた

大垣市

高橋 結愛（小三）

なつやすみいつてしまつたかぜにのり

大垣市

りゅう いしえん（小四）

トンボたち出番が来ててうれしそう

大垣市

野中 まい（小四）

入選

あかとんぼうんどうかいがたのしそう

雨にぬれあじさいの花ひかり出す

十五夜は月のうさぎも楽しそう

じりじりとせみも早起き歌つてる

せみの声よんではいるのは私かな

じやがいもをほればでてくる大家族

秋のかげみんなの後ろついてくる

まだですか小さい西瓜に問いかける

朝顔が毎日ささやくおはようと

萬紅葉つかまるものを探しててる

天国のばあちゃんと話す墓参

もみじ落ち真っ赤にそまる通学路

コスモスがかぜといつしょにおどりだす

ありさんがにもつをはこぶいそがしい

かぶとむしバトルはじまるもうすぐで

水門川青葉とともに流れゆく

花火して家族のえがおてらされる

赤とんぼぼくといつしょにおにごつこ

コスモスがうたつてているねゅらゅらと

あぶらぜみミニミニ鳴いて合唱中

選者吟

稻穂伸び登校支援子等も伸ぶ

小中の部

宗宮 花純（小四）

長山 りいさ（小五）

丸本 優咲（小五）

大垣市 早野 莉央（小五）

大垣市 福井 結心（小五）

吉國 友菜（小四）

坪内 望華（小四）

河合 俐空（小六）

相馬 幸穂（小六）

田中 昭成（小六）

大垣市 松本 浩志（小六）

大垣市 淀 潤（小六）

鍵田 渉悟（小六）

大垣市 あさの るうな（小二）

渡邊 翔太（小四）

梅村 直登（小六）

大垣市 林 泰地（小三）

大垣市 林 未来也（小二）

松村 希海（小四）

大垣市 杉野 蒼大（小五）

祐子

